

日帰り温泉施設の利用状況と利用者の評価

前橋工科大学 ○ 学生員 昆野 由理
前橋工科大学 正会員 湯沢 昭

1. はじめに

日帰り温泉施設の総数は、全国で 4800 程度といわれており、ここ最近の間で急激に伸びている。その背景には経済不況の影響が大きく、日帰り温泉は気軽に楽しめるため注目されているものと思われる。また、市町村が新たな地域活性化対策として、温泉施設を作り運営しているものも多い。しかし、採算性等の面で問題を抱えている施設もあるといえる。

市町村、第3セクターが運営する公営の日帰り温泉施設は、施設の実態を把握する際の売上高・支出等の情報を得ることができる。したがって、本研究では公営の日帰り温泉施設とその利用者を調査対象として、利用実態を把握し、今後の施設のあり方を検討することを目的とする。

2. 調査概要

(1) 調査対象施設

図1は調査対象の施設の位置を示したものである。群馬県内には300程度の日帰り温泉施設があるが、その中でも市町村・第3セクターが運営する49ヶ所の日帰り温泉施設とその利用者を調査対象とする。

(2) 日帰り温泉施設実態調査

日帰り温泉施設を対象として、現状を把握するために平成16年8月から9月にかけてアンケート調査を実施した。配布枚数は49枚であり、回収枚数は26枚であった。調査項目は施設の概要、温泉の泉源・循環について、過去15年分の年間入館者数、売上高、支出などである。

(3) 利用者実態調査

日帰り温泉施設の利用者の実態を把握するため、平成16年9月から11月にかけてアンケート調査を実施した。配布枚数は3300枚であり、回収枚数は637枚であった。調査項目は個人属性、目的、整備状況・清潔感についての評価、感想などである。

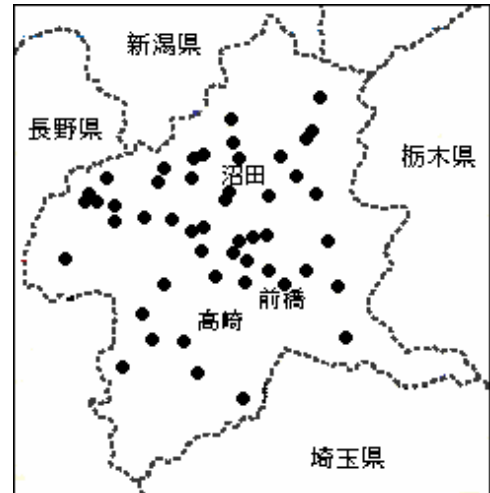


図1 調査対象施設の位置

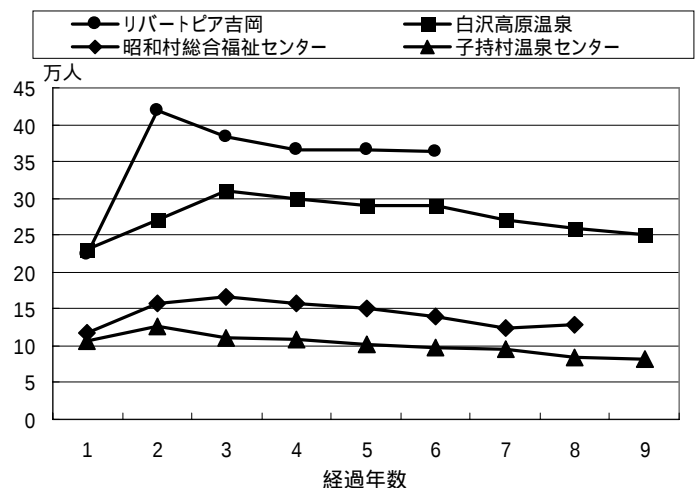


図2 各施設の年間入館者数

3. 日帰り温泉施設の利用状況

図2は、日帰り温泉施設対象の調査より得られた年間入館者数を、経過年数で表したものである(26施設中特徴の見られる4施設を掲載)。このグラフより、リバートピア吉岡・子持村温泉センターは2年目、白沢高原温泉・昭和村総合福祉センターは3年目までは増加しているが、その後は減少していくということが分かる。つまり、入館者数は施設が営業開始してから2,3年目でピークを迎えるが、その後は年々減少する傾向にある。また、このような傾向の施設は今回調査した26施設中、14ヶ所で観測された。したがって、この減少傾向を止めるための何らかの対策が必要であると考えられる。

キーワード：日帰り温泉施設、群馬県、地域活性化

連絡先：〒371-0816 群馬県前橋市上佐島町 460-1

前橋工科大学工学部建設工学科 TEL/FAX：027-265-7362

表 1 評価項目

整備状況の項目	清潔感の項目
A1 建物の概観	B1 建物内部の清潔感
A2 玄関の広さ	B2 脱衣場の清潔感
A3 従業員の対応	B3 内湯の清潔感
A4 脱衣場の広さ	B4 露天風呂の清潔感
A5 内湯の広さ	B5 トイレの清潔感
A6 内湯の洗い場の数	B6 休憩場所の清潔感
A7 露天風呂の広さ	
A8 休憩場所の広さ	
A9 レストランの広さ	
A10 レストランのメニュー	
A11 温泉の効能	
A12 温泉のお湯の質	

表 2 因子負荷量（バリマックス法による回転後）

施設の整備状況					因子名
	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	
A6	0.835	0.165	0.097	0.121	風呂場・脱衣場の広さ
A5	0.817	0.289	0.123	0.147	
A4	0.733	0.368	0.091	0.067	
A7	0.534	0.253	0.209	0.174	
A1	0.246	0.790	0.201	0.122	建物・施設の広さ
A2	0.352	0.783	0.171	0.111	
A3	0.413	0.574	0.075	0.199	
A9	0.194	0.137	0.830	0.109	レストラン・広間の広さ
A10	-0.004	0.100	0.827	0.121	
A8	0.399	0.190	0.502	0.001	温泉の効能・質
A11	0.122	0.144	0.117	0.892	
A12	0.171	0.128	0.099	0.890	
累積寄与率	23.2%	39.7%	54.7%	69.3%	
清潔感					因子名
	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	
B2	0.829	0.378			風呂場の清潔感
B3	0.790	0.368			
B1	0.769	0.445			
B4	0.722	0.365			
B6	0.320	0.680			トイレ・広間の清潔感
B5	0.344	0.669			
累積寄与率	44.1%	69.4%			

表 3 重回帰分析結果

施設の整備状況			
因子名	標準偏回帰係数	t 値	判定
風呂・脱衣場広さ	0.439	12.834	**
建物・施設の広さ	0.375	10.965	**
レストラン・広間の広さ	0.062	1.818	
温泉の効能・質	0.372	10.917	**
F 値		114.755	**
修正済決定係数		0.527	
清潔感			
因子名	標準偏回帰係数	t 値	判定
風呂場の清潔感	0.667	26.888	**
トイレ・広間の清潔感	0.404	16.289	**
F 値		689.129	**
修正済決定係数		0.7709	

**:1%有意

4. 利用者の分析結果

利用者の、施設に対する『設備の整備状況』と『清潔感』についての評価項目を表 1 に示す。それぞれの項目に対して、「1. 不満 2. やや不満～5. 満足」までの 5 段階評価をしてもらった。

続いて、それぞれの評価項目の結果より因子分析を行った（露天風呂・レストランに関する項目があるため露天風呂・レストランのない施設の利用者を除いたサンプルを使用、サンプル数は 411）。施設の整備状況の評価からは 4 つの因子、清潔感の評価からは 2 つの因子を抽出した。表 2 は、因子分析の結果

から得られた因子負荷量の値を整理したものである。

『施設の整備状況』については、第 1 因子は「内湯の洗い場の数」、「内湯の広さ」、「脱衣場の広さ」、「露天風呂の広さ」に関する項目の因子負荷量の値が大きいことから第 1 因子を「風呂場・脱衣場の広さ」という因子名とした。以下同様に、第 2 因子を「建物・施設の広さ」、第 3 因子を「レストラン・広間の広さ」、第 4 因子を「温泉の効能・質」とした。『清潔感』についても同様に因子名を付けた。

表 3 は、因子分析より得られた因子得点を説明変数、「総合的に判断した場合の評価」を目的変数として重回帰分析を行った結果である。標準偏回帰係数等の値から、『施設の整備状況』の「総合的な評価」に影響を与えているのは「風呂場・脱衣場の広さ」、「建物・施設の広さ」、「温泉の効能・質」であることが分かった。その中でも、利用者が一番重要であると考えていることは「風呂場・脱衣場の広さ」であった。また『清潔感』については、「総合的な評価」に特に強く影響を与えているのは「風呂場の清潔感」であることが分かった。

5. 考察

以上の結果より、利用者が施設を利用する際に特に重視していることは内湯・洗い場・脱衣場・露天風呂の広さ、建物の造り、温泉の質や効能、施設内の特に風呂場が清潔にされているかであることがいえる。しかし、整備状況に関する「風呂・脱衣場の広さ」、「温泉の効能・質」、「建物・施設の広さ」などについてはどの施設も容易に変更できることではないため、リニューアルを行うことが 1 つの対策となると考えた。今回の調査対象施設の中で実際にリニューアルを行った施設があり、それまで減少していた入館者数が、ピーク時に近い数字にまで増加するという結果であった。その時のリニューアル内容としては、「洗い場の数の増加」「露天風呂の設置」であり、主に整備状況の変更を行ったということで、整備状況の改善に「リニューアル」を行うということは有効であると考えた。

したがって、現在入館者数が年々減少している日帰り温泉施設の課題と言えることは、どの施設も施設内をより清潔に保ち、ある程度年数が経過したらリニューアル等を行い施設に変化を出す必要がある。